

平成22年度魅力ある学校づくり調査研究事業指定地域及び計画概要一覧

本事業により改善を図ろうとする主な課題と、その改善等に向けての目標及び、「魅力ある学校づくり」に向けての取組について、それぞれ簡単にまとめています。

都道府県名	課題	目標	取組
北海道	小・中学校間の円滑な接続による「中1ギャップ」への的確な対応及び、生徒同士の望ましい人間関係の構築に努める必要がある。	「中1ギャップ」や問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応及び、生徒一人一人の社会的スキル等の向上に努める。	小・中学校の相互交流や合同研修による連携体制の確立及び、社会的スキル等を身に付ける活動による魅力ある学校づくりを推進する。
岩手県	拠点校においては、家庭や地域の生活環境、集団との関わりや学習不振等から学校不適応・不登校生徒が5%と多く、教育環境の整備が急務である。	環境要因を探り、望ましい生活能力や社会関係能力を育成する指導法を工夫しながら、学校不適応・不登校生徒1%以内をめざす。	生徒の実態を明らかにしながら、小学校、家庭、地域の連携協力を深め、楽しく安全な学校づくりに向けて指導・支援を実践する。
秋田県	自分に自信がない、他者から認められたいという欲求が低い、集団生活において人間関係をうまく構築できない、などの状況が見られる。	学習や人間関係における精神的な不安を抱えている生徒への支援を充実させ、「正しく生きる」生徒を育成する。	学習意欲を高める魅力ある授業、生徒の自己有用感を高める生徒会活動の活性化、安心した学校生活を送るための小・中連携
山形県	子どもも大人も、一般的に周囲と関わり交流する機会が減る中で、よりしなやかで受容的に結び付く人間関係を構築する必要がある。	新たな不登校やいじめのない安心な学校を創る。家庭と連携し子どもの生活習慣を改善する。自己有用感を持つ子どもを育成する。	子どもたち全体の社会的スキルを向上させる。生活リズム調査で実態把握を行う。児童会と生徒会の協働、異学年集団の交流を行う。
福島県	学習意欲の向上、望ましい人間関係づくり、中1ギャップの予防により、不登校・不登校傾向の児童生徒を減らす。	温かい人間関係を育み、生徒に達成感を味わわせる授業を通して、安心して楽しく学べる学校づくりをする。	わかる・できる授業の実践と互いのよさを認め合う人間関係づくり、小・中の効果的な連携により、学校生活への適応感を高める。
茨城県	中学校に入学したばかりの1年生に、不登校の発生率が高く、解消されないまま進級し、学校全体の不登校生徒が増えていく傾向	児童生徒についての情報交換、積極的な生徒指導の取組の共有等、学区内小・中学校の連携による不登校未然防止に向けた支援体制の充実	9年間をひとつのスパンとする接続と役割分担を意識した、児童生徒に対する積極的な生徒指導の取組の共有と楽しい学校づくり
栃木県	①学ぶ意欲を育む、きめ細かい学習指導 ②安心して通うことができる学校の実現 ③開かれた学校づくり④小・中連携と地域との協力	①児童生徒にとって魅力ある学校づくりを行う ②教師にとって魅力ある学校づくりを行う ③保護者にとって魅力ある学校づくりを行う	①学級経営、授業、学校行事等の充実 ②専門性を発揮する指導体制 ③ふれあいのある生活環境、情報公開、連携協力の推進
群馬県	生徒の健全育成のためには中学校だけの努力では改善が難しい面もあり、小・中学校の連携及び家庭や地域との連携が必要である。	互いに認め合い支え合う生徒の育成を通して、居心地のよい魅力ある学校づくりを推進する。	学校行事の活性化、学習習慣づくり、小・中学校の児童生徒の連携の推進、リーフレットによる校区内小学校・家庭・地域への啓発活動
千葉県	学習に力を発揮できないことや人間関係構築力の弱さが、生徒の問題行動や不登校など、学校生活不適応を生じさせている。	学校生活不適応の原因と背景を把握し、問題行動や不登校生徒を未然防止する「魅力ある学校」の在り方を明らかにする。	学力を高める「魅力ある授業」の在り方、および自己有用感を高める人間関係構築力を高める特別活動の在り方を研究する。
神奈川県	不登校生徒出現率に改善が見られず、コミュニケーション能力が不十分な生徒も見られる。	豊かな人間関係を育み、生徒が生き生きと活動できる学校を目指す。	地域一体、小・中一体教育の充実を図り、学習習慣や基本的な生活習慣の確立を目指す。また、集団において個に応じた学習支援体制を確立させる。
新潟県	・他者とかかわる力や規範意識等の社会性が不足している児童生徒が多い	・規範意識と人間関係づくりを中核にした、児童生徒の社会性の育成	・授業の中でかかわる力や規範意識を育成する工夫 ・自己肯定感とかかわる喜びを実感させる児童生徒主体の交流活動
石川県	近年、家庭環境や地域環境の変化に伴う、生徒の生活や意識の多様化に並行するようになり、不登校に陥る生徒が増えてきている。	「心の居場所」や「温かい絆」づくりの取り組みを通して、生徒の自己存在感や自己有用感を高め、不登校の未然防止に努める。	アンケートによる生徒の実態把握をもとに、積極的に授業や行事の改善、情報発信や小・中連携、地域連携などを実施していく。

都道府県名	課 題	目 標	取 組
福井県	自己肯定感が低いために、非常に気を遣ったり、人間関係が作れずにいたりする生徒がいる。彼らは相談もできずにいる。	自己肯定感を養うために、人間関係を作る力をつける。また困っている時には相談する意識を培う。	体験活動や学習支援により、自己肯定感を高める。アンケート等により、教師の生徒理解力を高め、対応策を講ずることができるようにする。
岐阜県	不登校傾向を示す児童生徒をはじめ、すべての児童生徒が充実感や安心感をもって生活できる学校づくり。	学級経営や教育相談の充実と積極的な小・中連携を通して、魅力ある学校づくりを進め、不登校の未然防止を目指す。	学級経営の充実を基盤に、教育相談体制の充実、確かな小・中連携、心の把握を生かす指導等を通して不登校の未然防止に努める。
愛知県	人間関係づくりが苦手な生徒が増え、共同の活動や他者とかがわかることへの喜びを実感できない生徒がおり、長欠生徒も多い。	生徒たちが他者との楽しく・温かいふれあいを通して、かかわることへの喜びを感じ、充実した学校生活を送ることができる。	授業・行事・部活等で、様々な人（同・異学年・園児・小学生・家族・地域の方等）とかがわりができるように工夫する。
滋賀県	小学校から不登校の課題があり、中学校では小学校以上にその課題を抱える生徒が増える状態が続いている。	教育相談部会の取り組みを充実させ、不登校児童生徒の数を大幅に減らす。また、落ち着いて学習できる学校づくりに取り組む。	集団づくり・授業づくり・教育相談の充実・生徒会活動の充実を中心に、魅力ある学校づくりに取り組む。
京都府	人間関係づくりや学習への不安から集団を拒む生徒が増えているため、生徒が生き生きと活動し、安心できる居場所づくりに努める。	「心の居場所」「絆づくりの場」としての望ましい学年、学級づくりを推進し、不登校の未然防止と解消を図る。	・調査分析の活用と教育相談活動の充実 ・「わかる授業」の構築と学習ガイドの開発 ・小・中連携と生徒会活動の活性化による居場所づくり
兵庫県	小・中連携を密にし、生徒・保護者にとって、安全かつ安心な教育環境を整備し、確かな学力を向上させる必要がある。	安全・安心の学校環境の整備、“わかるから楽しい”授業づくりの推進を行い、「魅力ある学校づくり」(不登校未然防止)の在り方を研究する。	教育相談の充実や心の健康教育の実施、“わかるから楽しい”授業づくりの推進、小・中連携を密にした安心・安全な教育環境の整備を進める。
奈良県	多種多様な実態のある不登校傾向生徒への対応の難しさと、発達段階と個に応じた適切かつ迅速な支援体制の構築に課題がある。	正確で客観的な現状把握をもとに、常に自己の存在感を感じることができ、生徒1人1人に絆づくりの場がある学校づくりを推進する。	生徒理解をより充実させると共に、家庭・地域・関係機関とより緊密な連携を図り、多面的かつ多様な支援ができる体制を構築する。
和歌山県	学校・学年・学級集団づくり、基礎学力の向上、小・中学校の積極的な連携、基本的な生活習慣の確立に課題がある。	集団づくりを基盤として、小・中学校の連携や地域・家庭の連携を大切にしながら、「魅力ある学校づくり」に取り組む。	集団づくりの推進と充実、基礎学力の向上、小・中学校の連携強化、地域・家庭の連携推進、道徳・人権教育の推進と充実を図る。
鳥取県	「池ノ端の教育」を通して小中一貫の教育を図り、自立的で創造的な児童生徒の豊かな人間関係を育む教育の在り方を探る。	校区の各学校や家庭・地域との密接な連携を図り、「思いやりと自治」を育む教育活動を通して、不登校児童生徒数を2年間で半減させる。	人間関係づくり(スキルと実践)、学び合い教え合いの学習指導(The 授業)、生徒会活動(思いやりと自治)、小中一貫の教育を積極的に推進する。
島根県	自己有用感や自己存在感などの自尊感情が低く、表面的な人間関係に依存し、仲間からの分離不安を感じながら生活する生徒が多い。	授業と学級経営の工夫改善を通して、一人一人の自尊感情を育み、集団不適応を生み出さない温かい人間関係を育成する。	①教員の意識改革 ②個に徹したわかる授業 ③市販の検査の活用 ④学級経営の充実 ⑤組織的な生徒指導と特別支援等
岡山県	生徒の主体性とコミュニケーション力の育成及び、支え合う集団やわかる授業づくりの研究・実践、安心安全な学校環境づくり。	保・幼・小・中の連携による、生活と学習の効果的な指導・支援を通して、自立し自己実現できる児童生徒の育成を目指す。	校区の連携を図り、授業改善や集団づくり等の学校環境を整えるとともに、生活規律を確立し、不登校や問題行動を抑止・予防する。
香川県	・児童生徒の主体性や基礎学力の育成 ・教育相談体制の充実 ・小・中学校の連携の促進	・児童生徒の自発的・自主的取組を推進し、自立の基礎を養う。 ・教育相談体制の充実を図り、不登校の未然防止に取り組む。	・「弁当の日」等の実施やボランティア活動の推進 ・教育相談体制の充実 ・小・中が連携した行事や授業研究等の実施

都道府県名	課 題	目 標	取 組
愛媛県	将来に夢を見出せず、自分に自信がもてない生徒が増えており、学校に活力がなくなりつつある。	小・中連携や自己有用感を高める活動を通して、子どもに『夢』と『生きる活力』を与える。	小・中学校がより一層の連携を図りながら、学力向上、生活科・総合的な学習の時間、児童会・生徒会、学校行事等に協力して取り組む。
高知県	①不登校傾向の生徒に対する組織的対応 ②中1ギャップの解消 ③学年が上がるにつれて学力の二極化	①チーム支援会を立ち上げての組織的対応 ②教員や児童・生徒の交流を含めた小・中連携 ③目標を持って学習に取り組む生徒の育成	①市販の検査の実施・分析 ②小・中教員・児童生徒の交流 ③学習意欲を高めるための授業評価表等の活用・分析、授業づくりの工夫等
福岡県	生徒の学ぶ意欲を刺激する授業ができていない。生徒同士の本音の交流が少ない。家庭の教育力が低下している。	「元気に登校、笑顔で下校」 家庭では、早寝早起き朝ごはんを、学校では、満足を感じる学校生活を	楽しい授業づくり、安定した人間関係づくり、生活・学習習慣づくりを推進する。
大分県	不登校の未然防止には、魅力ある授業づくりを基盤に据え、豊かな人間関係を育むとともに効果的な小・中連携活動が必要である。	①「わかる授業」を創造する。②仲間づくりを通して温かい人間関係を構築する。③小・中連携(授業交流・情報交換)を推進する。	①指導法の工夫改善。②市販の検査分析を活用した人間関係づくりの取組。③一貫性のある「家庭生活のしおり」や「小・中連携シート」の作成・活用。
宮崎県	小・中学校及び地域との連携を図り、すべての生徒が、充実感を得られるようなきめ細かく柔軟な取組を実践する。	学校に通うことを楽しいと思えるような生徒づくり及び存在感と自己実現の喜びを味わえる教育活動の工夫を行う。	個を生かす指導方法の工夫・改善及び仲間意識を高め生徒一人一人に自信をもたせる指導を実践する。
鹿児島県	小・中学校の連携を更に図り、不登校生徒の減少を進める。	生徒会活動の活性化や特色ある学校づくりを進め、笑顔で登校、満足して下校できる、魅力ある学校を創ることで、不登校生徒の減少を図る。	生徒会活動の活性化を図るとともに、小・中学校の連絡会、研修会等を開催し、特色ある学校づくりを行う。
沖縄県	コミュニケーション能力が充分でなく、学習意欲に欠ける生徒への対応や小・中学校での組織的対応が不十分である。	小・中学校の組織的対応により子ども同士の望ましい人間関係を築き、自ら学び考え行動する子どもを育成する。	わかる授業や生き方を学ぶ行事づくり、人間関係を構築できる学校づくりを小・中学校が連携して実践していく。